

2021年3月期 第2四半期

決算説明資料

株式会社ナガワ (証券コード : 9663)

2020.10.26

2021年3月期 第2四半期 連結決算概況 (2020/4/1 ~ 2020/9/30)

B/S	4
P/L	5
要素別売上高増減	6
四半期ごとの売上高推移	7
セグメント別	8
ユニットハウス事業	9
モジュール・システム建築事業	10
建設機械レンタル事業	11
設備投資額と減価償却額	12

2021年3月期 業績見通し (2020/4/1 ~ 2021/3/31)

業績見通し	14
累計進捗率	15
セグメント別	16
ユニットハウス事業	17
モジュール・システム建築事業	18
建設機械レンタル事業	19
設備投資額と減価償却額	20
免責事項	21

2021年3月期第2四半期
連結決算概況

連結決算概況—B/S

	FY2019 Q2	FY2020 Q2	FY2021 Q2	YonY	
	18年4-9月	19年4-9月	20年4-9月	増減	増減率
※単位：百万円					
流動資産	23,951	25,196	24,075	△1,121	△4.4%
貸与資産	7,829	7,852	8,391	538	6.9%
固定資産	19,928	23,106	26,155	3,048	13.2%
総資産	43,880	48,302	50,230	1,927	4.0%
流動負債	3,771	4,033	4,387	353	8.8%
純資産	39,984	44,134	45,688	1,554	3.5%
自己資本比率 (%)	91.1%	91.4%	91.0%	△0.4pt	-
1株当たり純資産 (円)	2,652.09	2,826.69	2,932.71	106.02	3.8%

連結決算概況—P/L

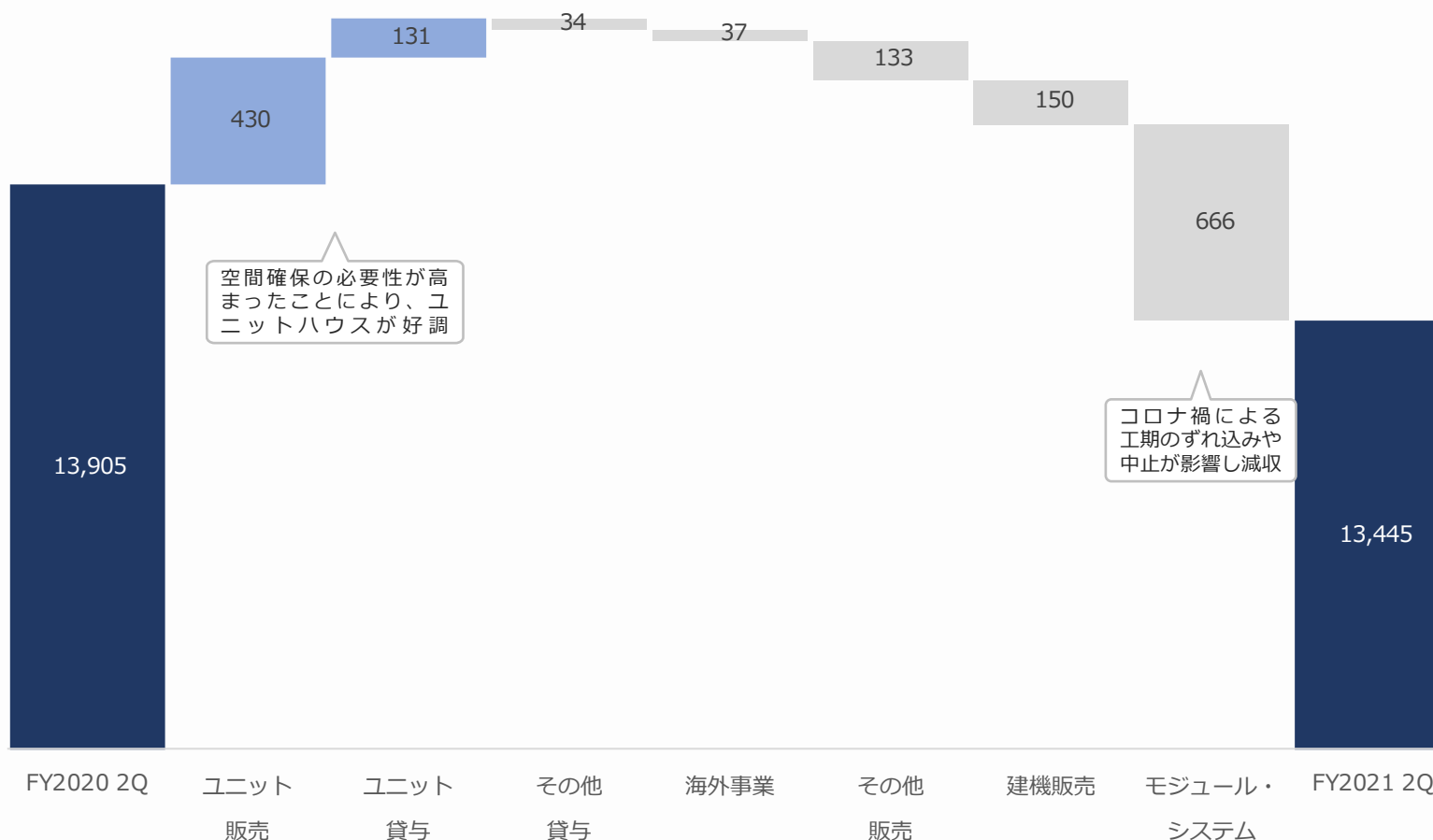
	FY2019 Q2	FY2020 Q2	FY2021 Q2	YonY	
	18年4-9月	19年4-9月	20年4-9月	増減	増減率
売上高	13,459	13,905	13,445	△459	△3.3%
販売収入	6,858	7,198	6,641	△557	△7.7%
レンタル収入	6,601	6,706	6,803	97	1.5%
売上総利益	5,265	5,372	5,653	281	5.2%
営業利益	1,771	1,700	1,847	146	8.6%
経常利益	1,863	1,844	2,043	199	10.8%
当期純利益 (※)	1,181	1,153	1,370	217	18.8%

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益を示す。

連結決算概況—要素別売上高増減

当初、想定していた新型コロナウイルスの影響による建設業界の落ち込み予測に反し、ユニットハウス事業は空間確保需要が増し、レンタルが増加。また生産体制の増強により中古ハウスの販売棟数を例年水準に戻したことで販売売上も増額。一方、モジュール・システム建築事業はコロナ禍の影響を受け、2月以降の情報収集活動の停滞や発注者の設備投資マインド低下による建築計画の中止や延期により前期比減にて推移いたしました。

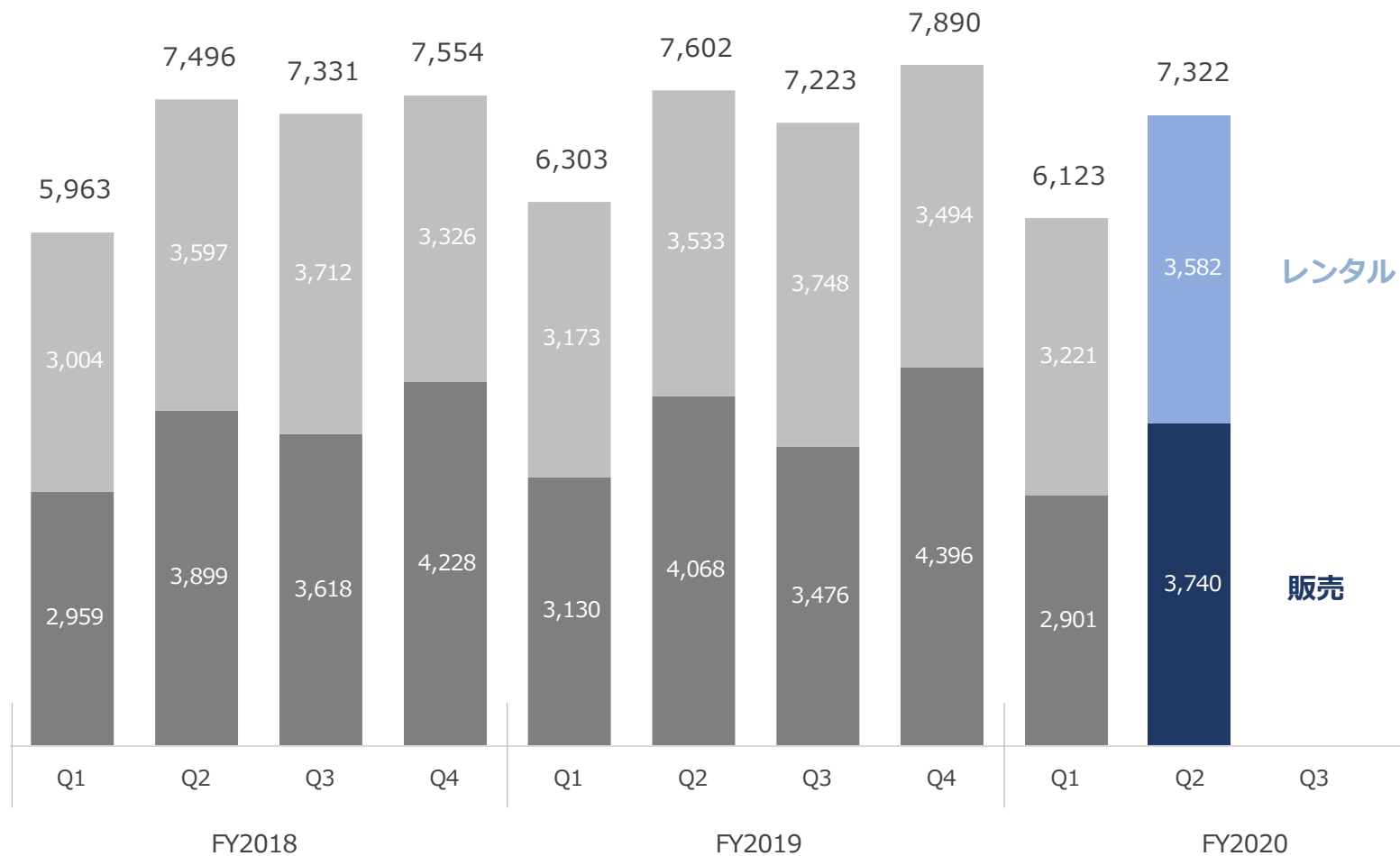
(単位：百万円)



連結決算概況—四半期ごとの売上高推移

第2四半期の売上高は、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、おおむね昨年並みに推移。

モジュール・システム建築事業の落ち込みをユニットハウス事業の販売とレンタルが補うことで、コロナ禍の影響を最小限に留めた。



連結決算概況－セグメント別

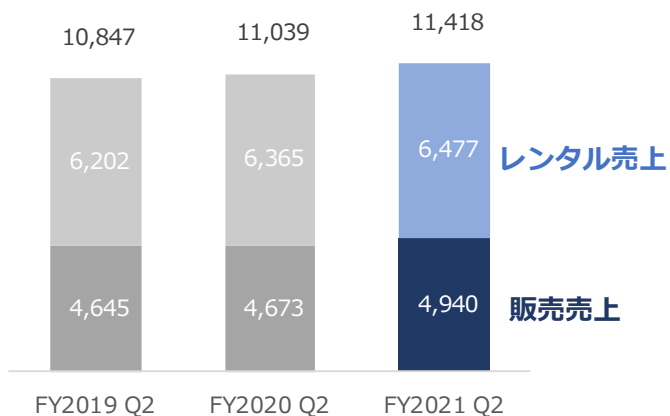
	FY2019 Q2 18年4-9月	FY2020 Q2 19年4-9月	FY2021 Q2 20年4-9月	YonY	
※単位：百万円				増減	増減率
売上高合計	13,459	13,905	13,445	△459	△3.3%
ユニットハウス事業	10,847	11,039	11,418	379	3.4%
モジュール・システム建築事業	1,978	2,232	1,557	△674	△30.2%
建設機械レンタル事業	633	633	469	△164	△26.0%
営業利益合計	1,771	1,700	1,847	146	8.6%
ユニットハウス事業	1,640	1,550	1,730	179	11.6%
モジュール・システム建築事業	168	140	132	△8	△5.7%
建設機械レンタル事業	120	25	5	△19	△77.0%
全社消去	△157	△15	△21	△6	40.0%

※全社消去の算定基準を今年度より変更したため、前年度の数値を当年度基準に合わせて変更しています。

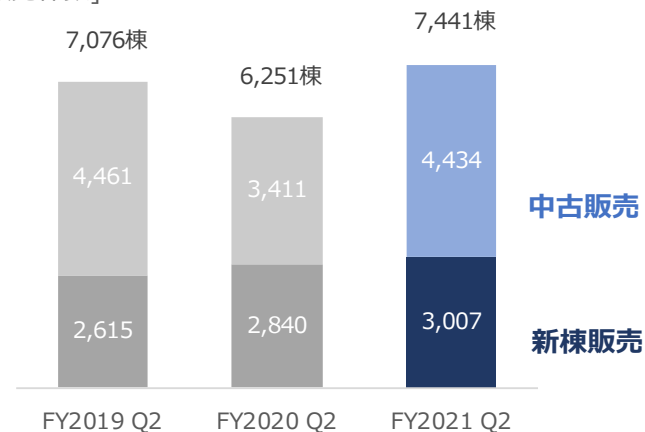
連結決算概況ーユニットハウス事業

建築現場事務所におけるフィジカルディスタンス確保の必要性から、ユニットハウスの在庫が増加。医療関係では発熱外来やPCR検査室の増設需要が増し、レンタルは好調に推移。また販売では生産体制の確立によりレンタル資産在庫が確保され、中古販売抑制を解除し例年通りに販売促進を行った結果 販売棟数が増加し、売上および利益を押し上げた。

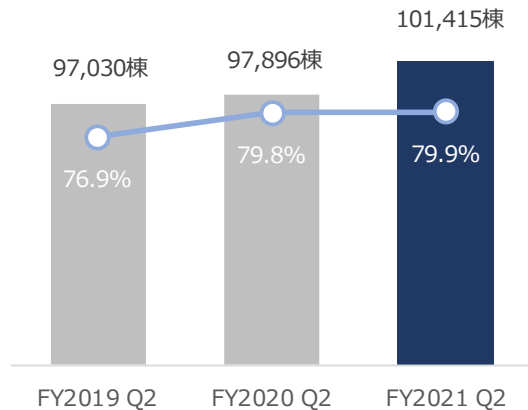
[販売売上とレンタル売上]



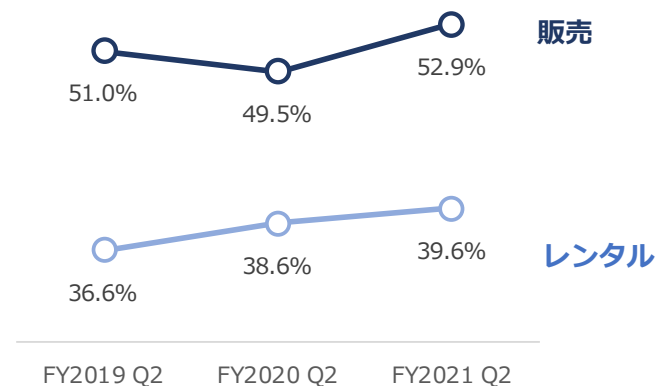
[販売棟数]



[保有棟数と稼働率]



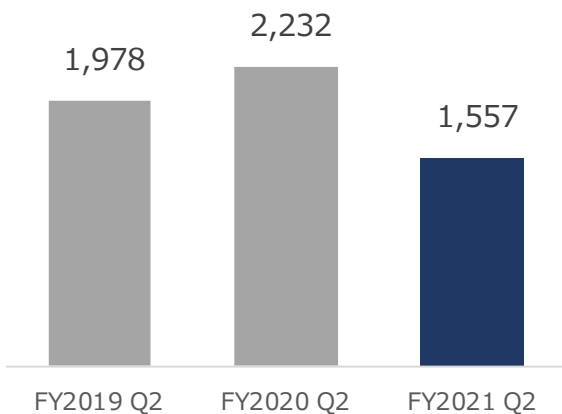
[売上総利益率]



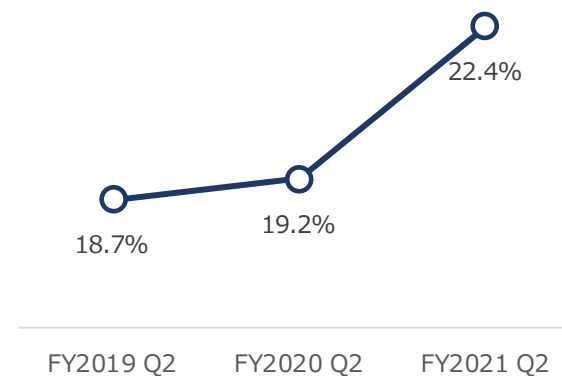
連結決算概況ーモジュール・システム建築事業

情報収集活動の停滞や発注者の設備投資マインドの低下により案件の中止や延期、建築規模の縮小など厳しい状況が続きました。しかしながら比較的影響の少ない地方を中心に需要が回復傾向にあり、前期比同等まで案件情報数が復調。下期以降の受注増を図る。

[売上高推移]



[売上総利益率]

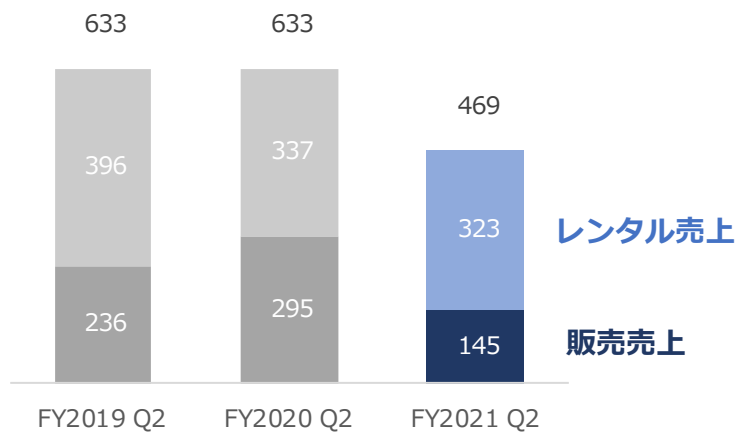


連結決算概況ー建機レンタル事業

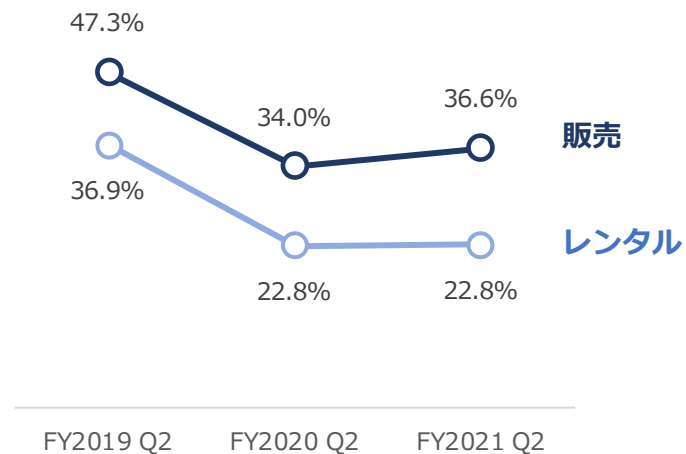
レンタルは公共工事の発注遅れが響き前期比微減で推移、販売においては中国を中心とする建設機械の中古販売では市場価格の下落が継続しており、建設機械の販売を抑制したことで前期比減収となった。



[販売売上とレンタル売上]



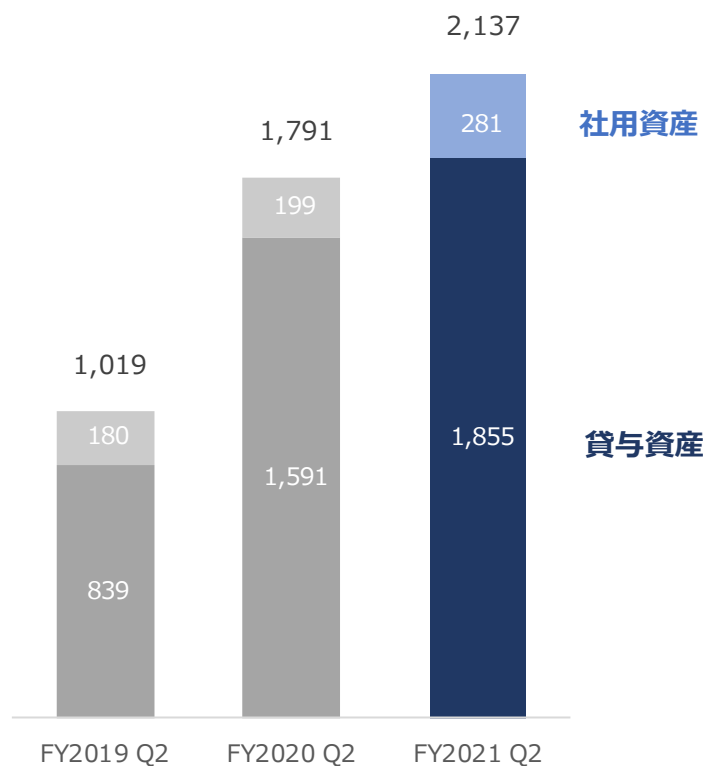
[売上総利益率]



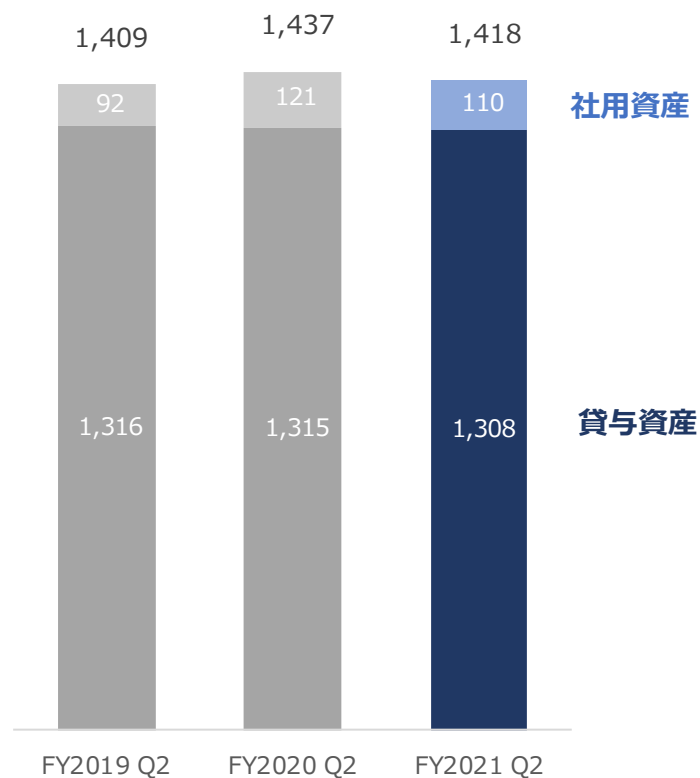
連結決算概況－設備投資額と減価償却額

好調に推移しているレンタル需要に対応するため、期初から全国的にユニットハウスの増産を継続したことで保有棟数が10万棟を超え、設備投資額は増額。減価償却額は過年度における減産施策が影響し、例年並みで推移。

[設備投資額推移]



[減価償却額推移]



2021年3月期

業績見通し

※2020年10月26日業績予想修正

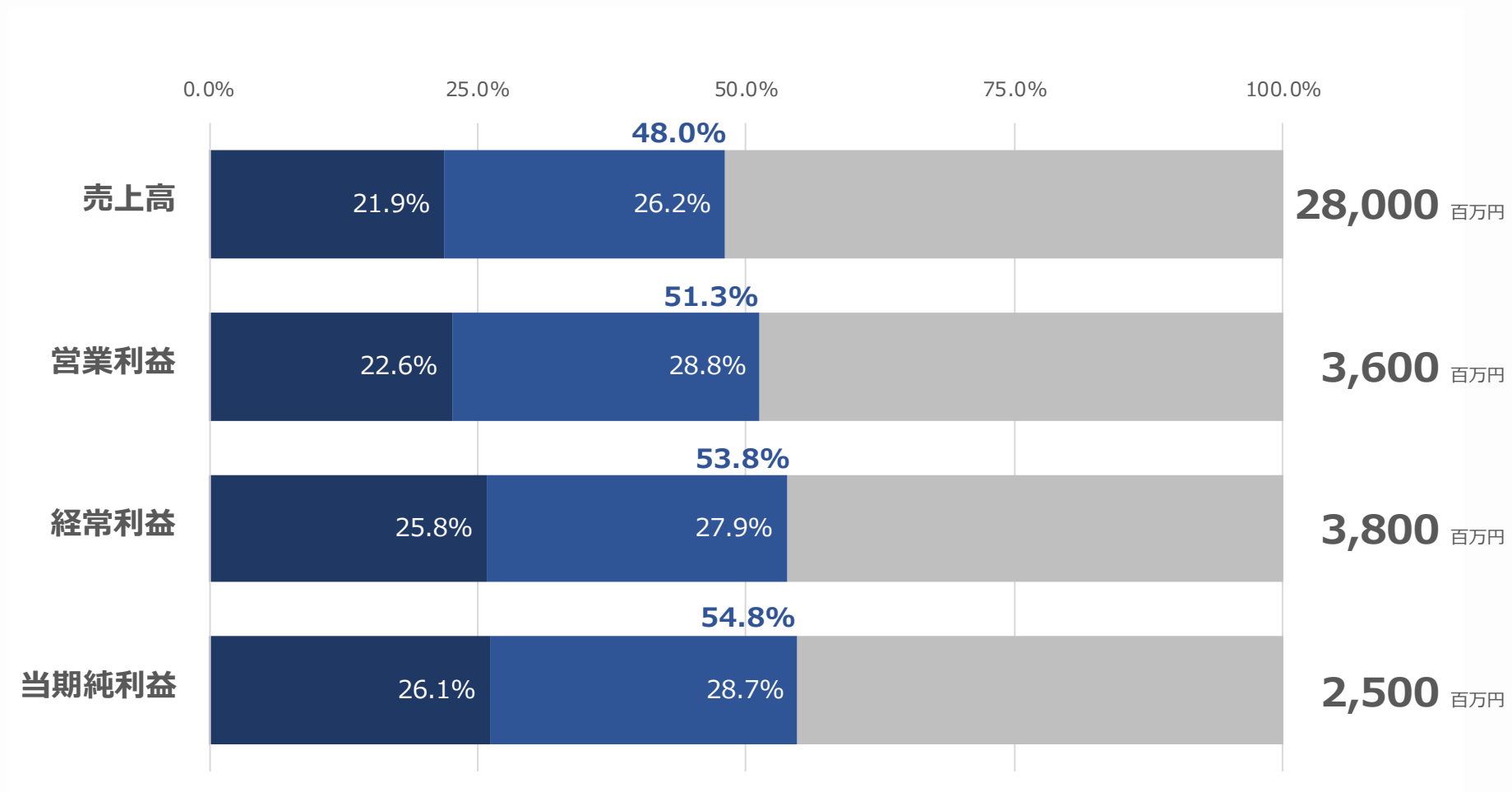
業績見通し

	FY2019 19年4-3月	FY2020 20年4-3月	FY2021計画 21年4-3月	YonY	
※単位：百万円				増減	増減率
売上高	28,344	29,018	28,000	△1,018	△3.5%
営業利益	3,794	3,536	3,600	64	1.8%
経常利益	3,979	3,717	3,800	83	2.2%
当期純利益（※）	2,632	2,105	2,500	395	18.8%
総資産	46,951	49,917	-	-	-
純資産	42,896	44,678	-	-	-
自己資本比率（%）	91.3%	89.5%	-	-	-
1株当たり純資産	2,785.94	2,867.61	-	-	-

※2020年10月26日に適時開示いたしました、業績予想の修正値を反映しています。

業績見通しー累計進捗率

当初想定していた新型コロナウイルスの影響による建設業界の落ち込み予測に反し、第2四半期までは昨年並みに推移。上方修正後の業績見通しに対する進捗率は、売上高では48%、経常利益は53.8%とおおむね50%程度の進捗。

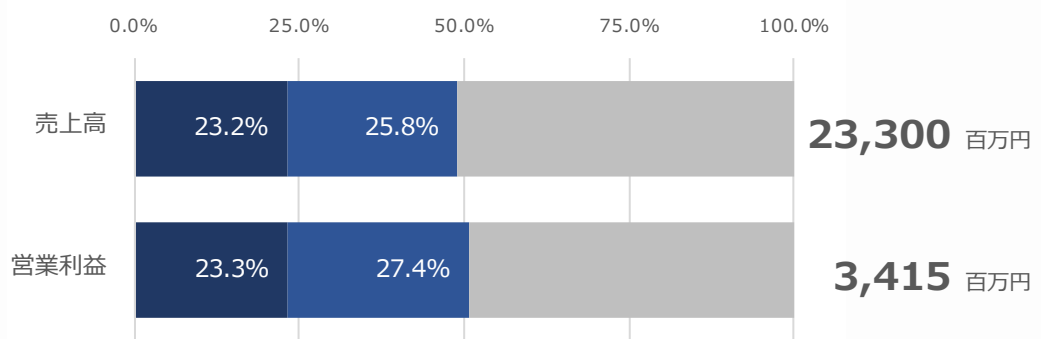


業績見通し—セグメント別

	FY2019 19年4-3月	FY2020 20年4-3月	FY2021計画 21年4-3月	YonY	
※単位：百万円				増減	増減率
売上高合計	28,344	29,018	28,000	△1,018	△3.5%
ユニットハウス事業	22,402	22,826	23,300	474	2.1%
モジュール・システム建築事業	4,426	4,920	3,500	△1,420	△28.9%
建設機械レンタル事業	1,515	1,272	1,200	△72	△5.7%
営業利益合計	3,794	3,536	3,600	64	1.8%
ユニットハウス事業	3,572	3,676	3,415	△261	△7.1%
モジュール・システム建築事業	352	392	175	△217	△55.4%
建設機械レンタル事業	216	12	10	△2	△16.7%
全社消去	△347	△545	-	545	△100.0%

業績見通し—ユニットハウス事業

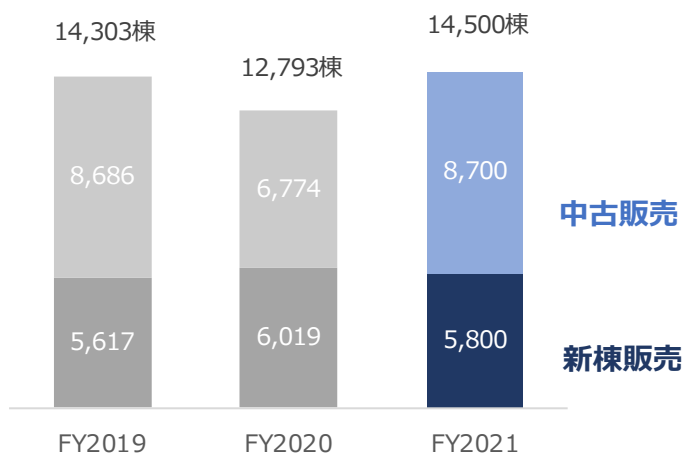
[進捗率]



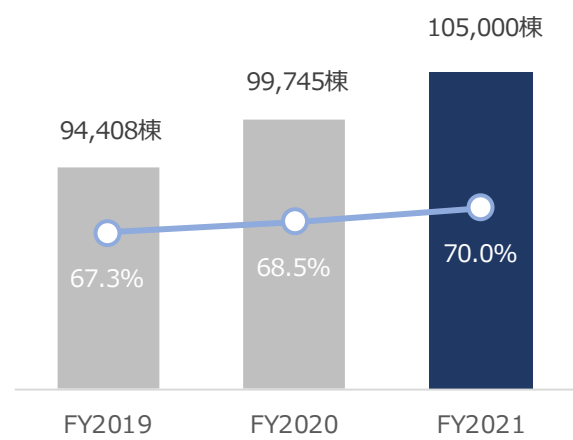
ユニットハウス事業の業績見通しは、製造強化により保有棟数10万棟を超えたユニットハウスのレンタル売上向上と、今年度より抑制解除した中古販売ハウスの売上増が継続すると予測。

営業利益は、新棟在庫の増加により前期比減額の予測。

[販売棟数]



[保有棟数と稼働率]

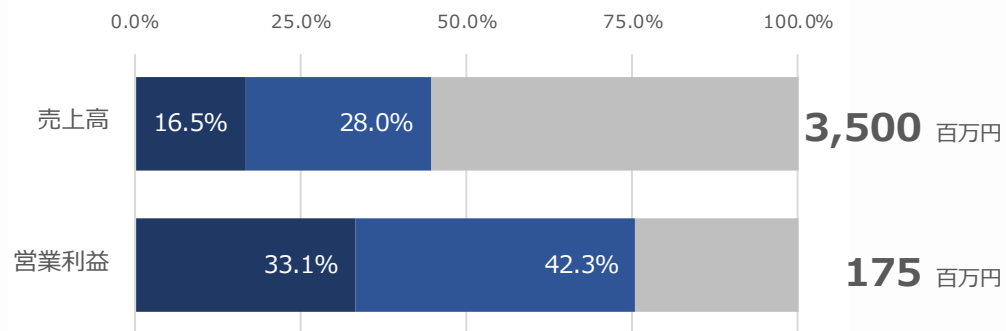


業績見通し・モジュール・システム建築事業

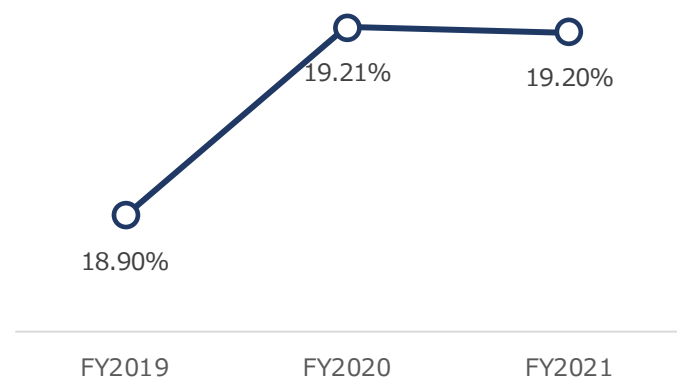
情報案件数が復調傾向にあるものの、新型コロナウイルスに対する不安は払拭できず、設備投資に対しては不透明な状況が継続すると予想。建築工事においては、建設会社や他社メーカーとの競合は必至であると判断し、下期の営業利益率は厳しい予測としております。



[進捗率]

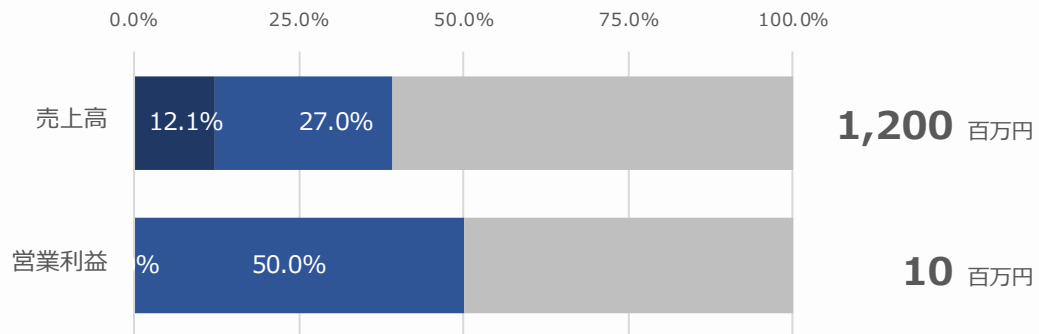


[売上総利益率]



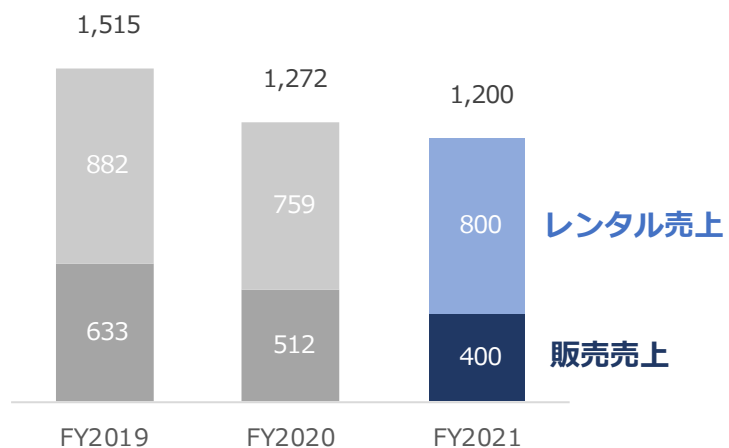
業績見通しー建設機械レンタル事業

[進捗率]

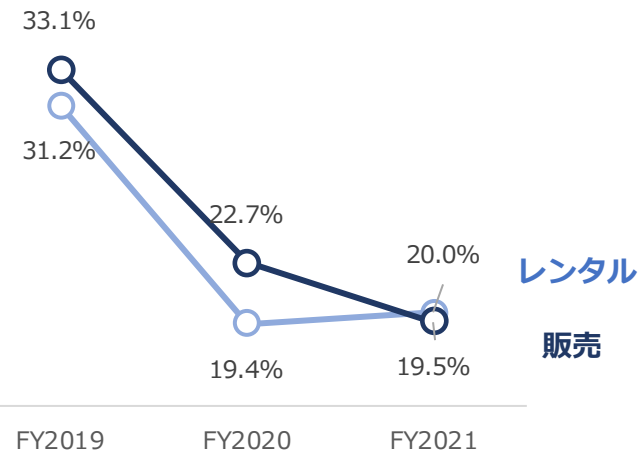


依然として厳しい経済状況が継続し、建設機械販売についても新型コロナウイルスの影響が中国をはじめ世界中で市場価格の下落が続いていることから、例年並の販売は厳しいと予想。

[販売売上とレンタル売上]



[売上総利益率]

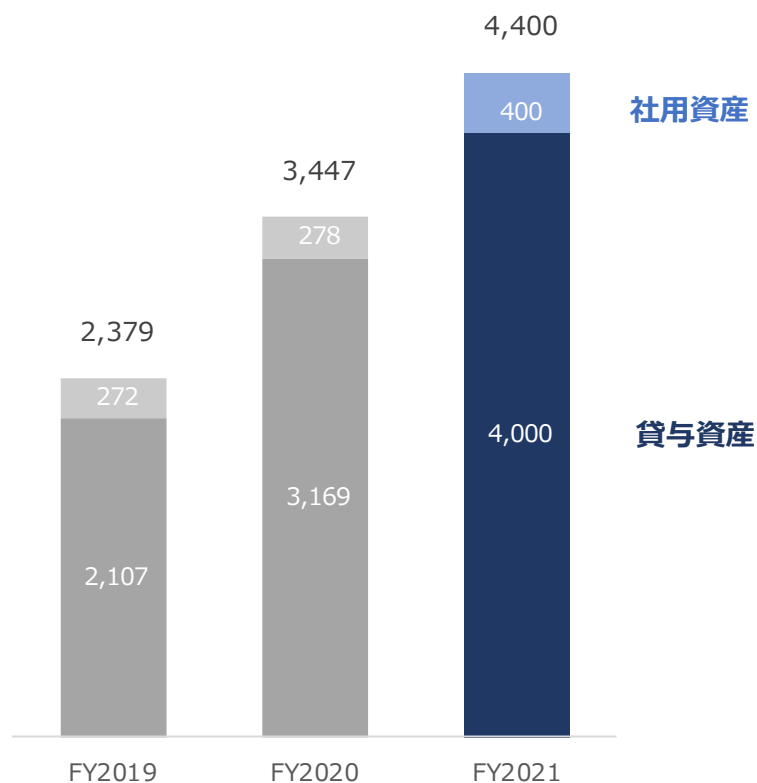


業績見通しー設備投資額と減価償却額

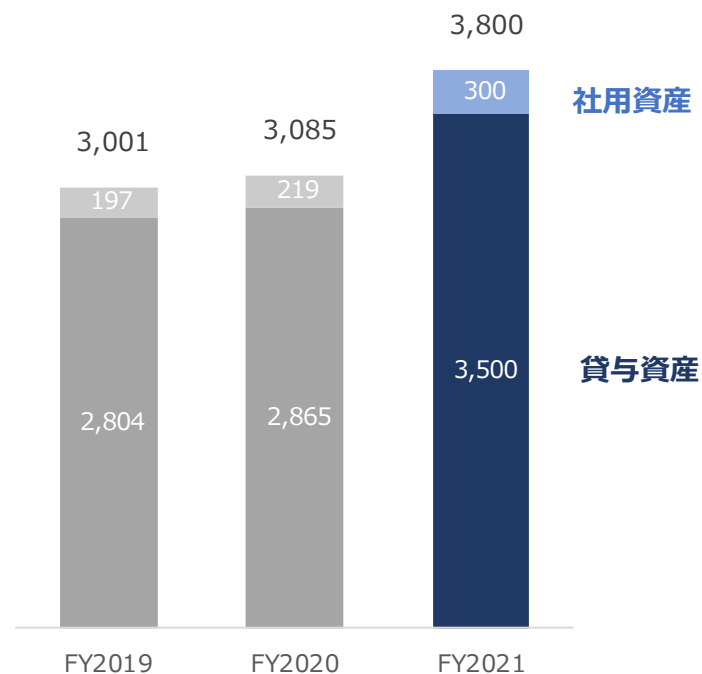
設備投資については好調なレンタル市場に対応すべく、ユニットハウス増産を継続。

減価償却額は継続してきたユニットハウスの増産により、貸与資産に占める新棟割合の増加と過年度の減産が影響し増額傾向に転じる予測。

[設備投資額推移]



[減価償却額推移]



免責事項

この資料は、株式会社ナガワ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、本資料には、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

以上を踏まえ、投資をおこなう際は投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

※決算短信や、その他の資料は弊社HPにてご確認ください。

株式会社ナガワ | IRライブラリー

<https://group.nagawa.co.jp/ir/library.html>

